

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和2年7月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770107411		
法人名	株式会社 いーくおる		
事業所名	グループホーム和の家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市北区東上野芝町2丁287		
自己評価作成日	令和2年6月10日	評価結果市町村受理日	令和2年7月21日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和2年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設と地域の方々との交流を深める為、施設では行事として地域の方に来て頂くよう、なごみ喫茶とカラオケ教室を月に1度開催させて頂いています。自治会の行事やボランティア活動にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム和の家(以下、事業所という。)は特に地域との交流を大切にしており、事業所において、毎月1回ずつ認知症カフェ「なごみ喫茶」や「カラオケ教室」を開催している。これらの催しにはそれぞれ毎回8~12名の地域住民が来所し、利用者とともに楽しめる行事として定着している。事業所の敷地内の菜園では、地域の健老会の協力を得ながら、野菜を栽培し、食材として取り入れることで、旬を楽しめるようにしている。また、年に4回程度、ラーメン店や寿司店の職人を事業所に招き、利用者に料理を提供している。その他にもウナギ料理や御膳料理を提供したり、事業所でマグロの解体ショーを披露するなど食事を楽しめる工夫を行っている。毎週土曜日には2つのユニットが合同で、タヌキがいることで知られている近くの「いたすけ古墳」に出かけ外出を楽しむ機会を作っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基本として、サービスの提供を実施しています。	運営理念「ひとりひとりの意志を尊重し、よく理解して安心と豊かな暮らしを地域と共に支えます。」をつくっている。理念は玄関、事務所内に掲示し、またパンフレットに掲載している。管理者は日頃から、利用者の意向に沿った支援を行うように職員には話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事に毎月参加して下さり、カラオケ教室等も開催して頂いています。	町会に加入している。「なごみの家便り（毎月発行）」を回覧板により配信し、事業所内で月1回ずつ開催している「なごみ喫茶」や「カラオケ教室」の案内をしている。こうした行事には毎回8～12名の地域住民が参加し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また日頃の散歩を通じて、地域住民から花をもらったりするなど地域との良好な関係に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板に毎月「なごみ新聞」を配信させて頂いています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方・自治会の方・ご家族様等が参加して下さり、報告や意見交換を行い参考にし実践させて頂いています。	運営推進会議は2か月に1回、奇数月に開催している。地域の代表者、各ユニットの家族代表、地域包括支援センター職員等が出席し、あらかじめ作成したレジュメに沿って、事業所内の活動報告を行っている。会議では出席者からの意見や提案はほとんどない。また議事録も作成していない。会議の内容はレジュメによって職員に伝達している。	会議において話し合った内容は少なくとも議事録として記録に残すことが重要である。出席者の意見や要望等の情報を職員間で共有するための基本的なツールとしての議事録の作成に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が一括して行っています。	市の担当者とは、日頃ファックスで事業所の空き状況を連絡したりする程度である。また、管理者はグループホーム連絡会に毎月参加しており、市の担当者が出席した際には意見交換を行っている。生活保護受給者について生活援護課の担当者に連絡することも多く、積極的に協力関係を築くことに努めている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設内研修やミーティング等で、身体拘束が無いように確認しています。</p>	<p>身体拘束に関する研修を年に3回程度開催している。日頃からケアを通じて職員間で互いに注意し合える関係を作っている。玄関はオートロックで常時施錠されているものの、内側から誰もが開錠できるように鍵を置いている。外出願望の強い利用者には職員が付き添うようにしている。</p>	<p>研修を実施しているものの欠席者に対する伝達研修が不十分である。少なくとも出席者と同等の情報伝達ができるような取り組みに期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等にて虐待について理解を深め、常に注意を払い虐待防止に努めています。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修によって理解を深めています。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が説明を行って、理解して頂いています。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族様とは信頼関係を築ける様 努力し、意見の収集に繋がっています。</p>	<p>「なごみの家便り」と担当職員が書いた利用者の暮らしぶりを毎月家族に郵送している。その際に、電話で応答があった家族には、管理者が意見を聴き取っている。また、日頃の家族の来所時や、毎年8月の「なごみ祭」を家族の意見を聴く場としている。意見等は連絡ノートに記録し、職員間で共有し、運営面に反映できるよう取り組んでいる。意見箱を設置しているものの意見が寄せられることはなく、十分な活用には至っていない。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティング等で意見を収集し、繁栄に繋げています。</p>	<p>管理者は、毎日の朝礼や毎月のカンファレンスで職員の意見を聴き取るように努めている。会社の代表者は週に1回、事業所で職員と話す機会を設けている。介護記録の様式を変更するなど、職員の意見を運営面に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新の際を利用して行われています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の意見を尊重し、進めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>代表者・管理者は、他事業所との交流を通して、サービスの質の向上に努めています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からお聞きした困りごとや不安に対して、カンファレンスを行い施設での対応を統一することで安心して頂きます。</p>		

16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様からも情報を頂き、安心して生活した頂ける様努めます。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族様・ご本人の意思を確認し、対応するよう心がけます。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を確認しながら、ご自分で出来る事は見守り支える体制が出来ています。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との関係に勝るものはありませんがご家族の代理をさせて頂いていると言う心構えで接しております。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みのご友人・病院に対しご本人の意思を尊重し、送迎や機会の提供に努めています。</p>	<p>墓参りや馴染みのある喫茶店等へは家族の協力を得て出掛けている。事業所では、馴染みの知人や友人の来所を歓迎し、できる限りの受け入れができるように努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎月の行事や日頃のお手伝いをして頂く時などに職員が間に入り、利用者同士の良好な関係づくりを支援しています。</p>		

22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、ご家族様の相談や支援をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望や意向はお聞きしたことに對して尊重しており、その都度変わってゆくご希望や意向に對しても尊重させて頂いています。	利用者担当制を採用し、担当した職員が利用者の意見を聴き取っている。意思表示が困難な利用者は表情や仕草等で察したり、家族から情報を得て意向等を把握している。聴き取った内容は連絡ノートに記録し、閲覧により職員間で周知することとしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ケアプラン作成時に過去の生活習慣などを踏まえた上でプランニングを行い現状に役立てています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルを確認し少しの変化にも対応できるように努めています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との連絡も取りながら、職員間での意見やアイデアを出し合いご本人の意向に基づいた介護計画を作成しています。	モニタリングが不十分であり、そのため定期的な介護計画の見直しも不十分である。利用者の状態に変化が見られたときは随時見直しを行っている。介護計画の作成は、看護師や主治医の意見とともに、ケアマネージャー、フロア長、担当職員が相談して作成し、作成後に家族に報告を行っている。	介護計画の作成には家族の意見を反映することが必要であり、カンファレンスに家族が参加するか、もしくは事前に家族から意見や要望を聴き取り介護計画に反映することが望ましい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の毎日の記録を記録し、変化の有無に対応しています。		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々ニーズに合わせて、直ぐに対応できるように職員間での連携を密にとり迅速に行っています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くの「いたすけ古墳」に散歩に行ったりすることで地域に親しんで頂いています。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携を密に取り、適切な医療が受けられるよう、迅速に対応しています。</p>	<p>事業所が提携している医療機関の医師による訪問診療（毎週金曜午後）があるため、ほとんどの利用者が利用開始時に主治医を変更している。事業所ではこの他、毎週歯科医の訪問診療や訪問看護がある。通院等は職員が同行し、変化が見られた場合のみ家族に連絡している。特に変化が見られないときは、「なごみの家便り」の郵送時に併せて受診した旨を報告している。また、必要に応じて連絡ノートに記録し職員間で情報の共有を行っている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問日以外でも訪問看護師と連携を図り、適切な看護が受けられるよう支援しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時も定期的に病院へ行き、担当医師・担当看護師より情報を把握するよう努めます。</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する以前より家族や関係者と話し合いの場を持ち、方針の共有に努めます。	ここ数年は看取りの実績はなく、職員に対する研修も行っていない。事業所としては今後看取り介護をしない方針であり、利用契約時においてもその旨を利用者や家族に伝えている。	利用者の高齢化が進み、今後看取り介護のニーズが高まる見込みがある中で、事業所としてどこまでの支援が可能かを再確認することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護やかかりつけ医院のクリニックの看護師長に研修をして頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通じ2回の防災訓練を実施しています。	昨年2回の夜間想定避難訓練を実施している。また2年に1回は、消防署立ち合いでの訓練を行っており、その際には近隣の住民にも参加を呼び掛けている。飲料水や食料品、オムツ、毛布などおよそ3日分程度の備蓄がある。	緊急連絡網を事務所等の職員が見やすいところに掲示する等、災害発生時に万全な対応ができるよう、日頃から準備しておくことが望ましい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重・プライバシーの確保・尊厳のある暮らしを基本とし、日々の支援に努めます。	年に1回程度の研修を行っている。また日頃から職員同士その場でお互いに注意をし合える関係づくりに努めている。特に職員が、利用者に対して命令口調になったり、上から目線で話しをすることがないように注意を促している。居室への入室の際は「ノック・声掛け」を徹底するなど、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。またタンスの中を整理するときは必ず、職員と利用者の2人で行うなど、プライバシーの配慮に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いを普段の会話や仕草から読み取り遠慮のない表出や自己決定をして頂きます。		

38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人に合わせた生活が出来るよう心がけています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を一番に考え支援しています。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に出来るお手伝いをして頂く事で、食事の楽しみや食べる意味を見出して頂き楽しく過ごして頂きます。	食材は献立とともに業者から購入している。利用者は能力に応じて、豆の皮むきや味見を職員と一緒にやっている。また、家族の協力を得て、利用者の希望する外食ができるように支援している。年に4回は、ラーメン店や寿司店の職人を事業所に招き、料理を提供したり、マグロの解体ショーを披露するなど食事が楽しめるように工夫している。季節の食事は御膳料理を提供している。おやつは、利用者の食べたいものを事前に職員がまとめて購入している。	月に1回程度は、食事の楽しみとして、クッキングやバイキング形式等、変化のある食事提供ができるような取り組みに期待したい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録しこまめに確認を行い、量の変化を早めにチェックすることで健康状態を確認するようにしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医師の助言をもとに、利用者様のケアを心得ています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、見守り介助を行っています。	排泄表の作成により排泄パターンを把握している。それにより食事や入浴前に時間を見て利用者に声を掛けトイレに誘導している。夜間もできる限りトイレ誘導を行っている。	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の有無の確認を行い、量や硬さなどをチェックし、一番利用者様の健康に直結する便秘や下痢が無いかに注意をしています。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>月木・火金・水土と週に2回決められた曜日の午前中に入浴して頂き、一週間のメリハリを作っています。</p>	<p>入浴は週2回（午前中）が基本となっている。希望があれば回数や時間帯の変更も可能である。また、浴槽のお湯は、利用者ごとに、入れ替えている。入浴を拒む利用者には入浴日や時間を変更することで対応している。石鹸やシャンプーは事業所の備え付けであるが、好きなものを持ち込むこともできる。入浴剤も可能である。必ずしも同性介助ではない。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>職員側が時間を定めず、一人一人に状況に応じて、安心して休息したり、寝て頂いたりして頂きます。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療連携シートの作成・薬情報ファイルの作成により、職員間での情報を共有しています。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>レクリエーションの参加やイベントの参加を促し、興味のあるものには積極的に無いものにも、出来るだけ参加して頂くように支援しています。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ご本人の希望に添えるよう支援に努めています。</p>	<p>日常的な散歩は月に1~2日程度にとどまっている。近くの「いたすけ古墳」には2ユニット合同で毎週土曜日に出かけていたが現在は行えていない。以前は海遊館などへの遠足もしていたが、現在はできていない。</p>	<p>職員の勤務体制を工夫したり、家族やボランティアの力を借りながら、外出の回数を増やしていくことが望まれる。</p>

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望のものや必要なものをその都度揃えるよう努めます。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はご本人の希望があればその都度お話して頂けるよう努めます。手紙は代筆や代わりに読んだりすることで窮屈に感じない様支援します。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その時々々の状況に応じた対応が出来る様に心掛けています。</p>	<p>多くの利用者が1日の大半を過ごしている居間兼食堂には大きな窓があり、採光がよく明るい。壁には職員と一緒に作成した季節が感じられる作品を飾り、利用者だけでなく家族も楽しめるように努めている。敷地内の庭に菜園があり、地域住民（健老会）がボランティアでキュウリ、トマト、さやえんどう、オクラなどを栽培している。収穫した野菜は利用者みんなで食べ、旬の食材を楽しめるようにしている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご本人の意思を確認しながら、その時々で対応しています。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人・ご家族様の意見を重要視しご利用し易いレイアウトにしています。</p>	<p>電灯、ベッド、カーテン、クローゼットは備え付けである。多くの利用者は仏壇や整理ダンス、テレビなど好きなものを持ち込んでいる。ベッドの代わりに畳と布団のニーズにも対応できる。居室内は毎日職員が清掃している。エアコンの温度等は職員が管理している。各居室扉には廊下側から自分の部屋がわかるように「干支と氏名」の表札を掲げている。</p>	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の力を生かし安全に自立した生活が送れる様支援しています。</p>		
----	---	---	--	--

V アウトカム項目				
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの んど掴んでいない	② ③ ④ほと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある 数日に1回ある まにある ほとんどない	② ③た ④
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	④
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	④
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	④
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない	④ほ
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 たまに ④ほとんどいない	③
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	④ほ
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基本として、サービスの提供を実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事に毎月参加して下さり、カラオケ教室等も開催して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板に毎月「なごみ新聞」を配信させて頂いています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方・自治会の方・ご家族様等が参加して下さい、報告や意見交換を行い参考にし実践させて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が一括して行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	施設内研修やミーティング等で、身体拘束が無いように確認しています。		

7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等にて虐待について理解を深め、常に注意を払い虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修によって理解を深めています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が説明を行って、理解して頂いています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族様とは信頼関係を築ける様 努力し、意見の収集に繋がっています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティング等で意見を収集し、繁栄に繋がっています。</p>		
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新の際を利用して行われています。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の意見を尊重し、進めています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>代表者・管理者は、他事業所との交流を通して、サービスの質の向上に努めています。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からお聞きした困りごとや不安に対して、カンファレンスを行い施設での対応を統一することで安心して頂きます。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様からも情報を頂き、安心して生活した頂ける様努めます。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族様・ご本人の意思を確認し、対応するよう心がけます。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を確認しながら、ご自分で出来る事は見守り支える体制が出来ています。</p>		

19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との関係に勝るものはありませんがご家族の代理をさせて頂いていると言う心構えで接しております。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みのご友人・病院に対しご本人の意思を尊重し、送迎や機会の提供に努めています。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎月の行事や日頃のお手伝いをして頂く時などに職員が間に入り、利用者同士の良好な関係づくりを支援しています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所された後でも、ご家族様の相談や支援をさせて頂いています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>○思いやり意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご希望や意向はお聞きしたことに對して尊重しており、その都度変わってゆくご希望や意向に對しても尊重させて頂いています。</p>		
24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ケアプラン作成時に過去の生活習慣などを踏まえた上でプランニングを行い現状に役立てています。</p>		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日バイタルを確認し少しの変化にも対応できるように努めています。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族様との連絡も取りながら、職員間での意見やアイデアを出し合いご本人の意向に基づいた介護計画を作成しています。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人の毎日の記録を記録し、変化の有無に対応しています。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々ニーズに合わせて、直ぐに対応できるように職員間での連携を密にとり迅速に行っています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くの「いたすけ古墳」に散歩に行ったりすることで地域に親しんで頂いています。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携を密に取り、適切な医療が受けられるよう、迅速に対応しています。</p>		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問日以外でも訪問看護師と連携を図り、適切な看護が受けられるよう支援しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時も定期的に病院へ行き、担当医師・担当看護師より情報を把握するよう努めます。</p>		
33	<p>12</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化する以前より家族や関係者と話し合いの場を持ち、方針の共有に努めます。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護やかかりつけ医院のクリニックの看護師長に研修をして頂いている。</p>		
35	<p>13</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間を通じ2回の防災訓練を実施しています。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格の尊重・プライバシーの確保・尊厳のある暮らしを基本とし、日々の支援に努めます。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様の希望や思いを普段の会話や仕草から読み取り遠慮のない表出や自己決定をして頂きます。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々人に合わせた生活が出来るよう心がけています。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご本人の意思を一番に考え支援しています。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前に出来るお手伝いをして頂く事で、食事の楽しみや食べる意味を見出して頂き楽しく過ごして頂きます。</p>		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の食事量や水分摂取量を記録しこまめに確認を行い、量の変化を早めにチェックすることで健康状態を確認するようにしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>往診の歯科医師の助言をもとに、利用者様のケアを心得ています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限りトイレでの排泄を心掛け、見守り介助を行っています。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の有無の確認を行い、量や硬さなどをチェックし、一番利用者様の健康に直結する便秘や下痢が無いかに注意をしています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>月木・火金・水土と週に2回決められた曜日の午前中に入浴して頂き、一週間のメリハリを作っています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>職員側が時間を定めず、一人一人に状況に応じて、安心して休息したり、寝て頂いたりして頂きます。</p>		

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療連携シートの作成・薬情報ファイルの作成により、職員間での情報を共有しています。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>レクリエーションの参加やイベントの参加を促し、興味のあるものには積極的に無いものにも、出来るだけ参加して頂くように支援しています。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ご本人の希望に添えるよう支援に努めています。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望のものや必要なものをその都度揃えるよう努めます。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はご本人の希望があればその都度お話して頂けるよう努めます。手紙は代筆や代わりに読んだりすることで窮屈に感じない様支援します。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その時々状況に応じた対応が出来る様に心掛けています。</p>		

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご本人の意思を確認しながら、その時々で対応しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人・ご家族様の意見を重要視しご利用し易いレイアウトにしています。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の力を生かし安全に自立した生活が送れる様支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない